区報ぶんきょう
発行／文京区　編集／スポーツ振興課　代表 ☎(3812)7111
〒112-8555　文京区春日 1-16-21　http://www.city.bunkyo.lg.jp/

教育プログラム
［よういドン！］

TOKYO 2020　TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

オリンピック・パラリンピック こども新聞

創刊号
平成29年(2017)
10/1

2面
アルバルク東京と協定

3面
みんなで親しむ能(Noh)プロジェクトレポート

オリンピック・パラリンピック記念硬貨

楽しみ！

外国のコインやお札の実例を見せていただく

財務省の仕事について学ぶこども記者

財務省の歴史

平安時代、大くら省というお金にかん係する団体ができました。明治いしん後(明治二年)新しく東京に大きい、大くら省ができました。お金というものは大切だから、早くできたのかなと思いました。

そして、2001年に、「財務省」とかい名しました。

（小4／S・K記者）

財務省のしくみ

財務省とは国の役所の一つで、主にお金を扱う所です。

財務省のお仕事には大きく分けて二つあります。一つ目は、みんなの生活を安定させ、より良くするために、必要なお金を集めてその使い道を計画する「予算案」を作ることです。二つ目は税金のしくみ(みんながらお金を集めるしくみ)について、案を作ることです。国民が出し合ったお金(税金や保険料)を使って様々な公共サービスを提供することです。このような活動を「財政」といいます。

（高3／R・K記者）

みんなを支える公共施設

身の回りには、けいさつや医りょうなどの「公共サービス」と、公園や学校などの「公共しせつ」があります。公共サービスや公共しせつは、多くの人から集めたお金で行われています。公共サービスや公共しせつがなくなると、火事がおきても、助けてくれる人が少なくなります。学校もなくなるので、友達も少なくなり勉きょうもできません。私たちは、公共サービス、公共しせつに支えられているのです。

国は一年間に九十七兆円のお金を使っています。ですが、九十七兆円のうち、公共サービスなどに使われるお金は七十三兆円です。のこりの二十四兆円は借金の返済と利息に使われています。

（小4／K・F記者）

ギザギザでぎぞう防止

お金のつくりかた

みなさんはお金についてどのようなイメージを持っていますか。お金が好きな人が多いのではないでしょうか。そんなお金は造幣局で作られています。どのように作られているのでしょうか。

まず、お金の材料をとかし、金属の塊を作ります(溶解・ようかい)。次に、金属の板を貨幣の厚みまで延ばし、まき取ります(圧延・あつえん)。この板からお金の形に打ち抜きます。これを円形(えんぎょう)といいます。

（小5／S・I記者）

ぎぞう防止のための工夫

世界中のお金には、ぎぞうされないよう、工夫がされています。例えば、日本の500円玉の横には、ぎぞうができないよう、ななめギザがきざまれています。ちなみに、500円玉は世界で初めてななめギザをつけた貨幣です。

お札には、人の顔がえがかれていたりします。なぜ人の顔がぎぞう防止になるのかというと、人の顔がかわっていたら、意外とすぐ気がつくのです。なので、お札には人の顔がえがかれていることが多いのです。

世界にも、沢山のお札があり、フランスなどのお札(ユーロ)は、建物や橋がえがかれていますが、その建物や橋は実在しません!!

（小5／M・O記者）

記念こう貨

記念こう貨とは、日本でオリンピックが行われたり、天皇陛下が即位した時など、国にとってめでたい事があった時に、特別にはっこうされるこう貨の事です。

記念こう貨のはっこう枚数は、決まっていませんが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、30種類はっこうされるそうです。

金と銀の記念こう貨は、こう貨一枚のかちより高くうられます。なぜかというと、ぎぞう防止のためだそうです。

（小5／R・N記者）

「こども新聞は主体的に関わることが大切」成澤文京区長インタビュー

記者「私たちに、どんな新聞を作ってもらいたいですか?」

区長「記者のみなさんが、新聞を読む人にどういうことを知ってもらいたいかを考えて、作ってほしいと思います」

記者「パラリンピックの知名度が低いのは、どうやって増やしたらいいと思いますか?」

区長「目の見えない人の水泳では、タッピングという棒で頭をポンと叩いて知らせるということをします。そういうことも、観る機会があると気づくことが出来る。こども新聞でもぜひ、そういうことを知る機会を増やしてください。また、文京区はドイツのホストタウンになりました。ドイツのパラリンピアンと交流する機会を作り、その選手が東京2020大会で優勝したら、みんなで『おめでとう』と言えるようにしていきたい。ぜひみなさん一人ひとりが応援団長になってください」

インタビューの最後に、メッセージをいただきました。

成澤区長（小4／K・S記者撮影）

「オリンピック・パラリンピックこども新聞は、記者のみなさん自身が、スポーツのすばらしさ、国際交流の楽しさ、障害者の気持ちを理解することなどに、主体的に関わっていくことが大切です。ぜひがんばってください!」

区長とお話ができてよかったです。（小4／R・H記者）

オリンピック・パラリンピックに対する気持ちがとても伝わってきました。

（小4／R・Y記者）

文京区は東京オリンピック・パラリンピックに向けて色々なことをしているのが分かりました。（小4／M・O記者）